

SSRI

Give me a break !

ちょっと一言

Aegis Ashore と合わせて THAAD の導入を

藤岡智和

Aegis Ashore の導入がいよいよ現実味を帯びてきた。

SM-3 Block II A は Block I より大型の弾頭(EKV)を搭載し、三段推進であることから ICBM 迎撃が可能な速度でもあり、その火力性能は北朝鮮からの弾道弾を迎え撃つには十分な性能を有しているようである。 しかしながら以下のように理由から、Aegis Ashore の導入後は THAAD の導入も検討する必要があると考える。

・保有弾数

米国がルーマニアに配備した Aegis Ashore は 32 発の SM-3 Block I B を装備している。 システムが装備する Mk 41 垂直発射機(VLS)は 8 セルが基本ユニットであることから 3 個ユニットを使用しているが、1 個射撃単位(FU)の保有弾数が 32 発というのは予想飛来弾数に対して余りに少ない。 FU の発射機を増設することも可能であるが予算の制約もある。 米海軍の Aegis 駆逐艦では Mk 41 を 96 セル(12 個ユニット)装備しているが、各種ミサイルが装填されているため SM-3 はその一部だけである。

これに対し THAAD は 1 個 FU が 8 発搭載発射機を 6~9 基連接でき、保有弾数は 48~72 発になる。 仮に我が国がルーマニア配備と同じシステム構成で 2 個 FU の Aegis Ashore を配備すると全弾数は 48 発で、THAAD 1 個 FU と同じ弾数でしかない。

・機動展開能力

我が国への弾道弾の脅威は北朝鮮本土からだけと限らない。 もし北朝鮮が SLBM を実用化すれば太平洋側からの飛来も考えなければならない。 更に将来は中国からの弾道弾攻撃も考慮しなければならないかもしれない。

そうした場合には、日本海側に配備した固定式の Aegis Ashore では対応できなくなる。 尤も現在ルーマニアに配備されている Aegis Ashore は当初ハワイ Kauai 島に設置して試験が行われた後に移設されたもので、移設は不可能ではないが、移設先にレーダなどを取り付ける建屋等の建設、既配備装置の分解、輸送、再設置を考えると、移設には年単位の期間を要すると思われる。

このため Aegis Ashore ほどの高い火力はないものの、状況の変化に対応して機動展開できる THAAD を併せ持つことが不可欠と思われる。(2017 年 12 月 15 日)